

秀吉が通った道と城下町について

城下町について

名護屋城があった当時は、城周辺に城下町が栄えていきました。

主な城下町としては、名護屋帯を売っていた「^{あかねやまち}茜屋町」など様々な町がありました。

その中で私が気になった材木町について紹介します。

材木町は名護屋港からお城に向かう途中にある、縦に長い町でその名の通り材木^{のきさき}を売買する町でした。当時は、家の軒先に木を並べていたようです。

材木は、船や大名の屋敷など様々な用途で使われていきました。

現在、材木町という地名は使われていませんが昭和 30 年ごろまで使われていました。いまだに当時使われた道は残っており当時の面影がふと見られるので是非一度いかれてみてはどうでしょうか？



当時の材木町の様子

茜屋町について

名護屋城下町は、主に名護屋城の北西から東側の谷筋に沿うよう展開していたと推定されています。

「肥前名護屋城図屏風」にその様子が描かれていますが名護屋港や主要な港から派生するように町屋が描かれています。また、屏風絵に描かれる主要な道筋は、現在でもたどることが可能であり現状でも短冊状の地割が残っている部分があります。

城下には「茜屋町」は城下町の中でも一番にぎわっていた町で肥前名護屋城図屏風には店が建ち並ぶ様子が描いてあります。



上の絵は帯のようなものを売っている様子が描かれています。

たいこうどう 太閤道とは

^{たいこうどう}太閤道とは・^{とよとみひでよし}豊臣秀吉が作ったと伝わる道のことです。「^{たいこう}太閤」とは豊臣秀吉のことをさす言葉です。

^{ぶんろく}文禄・^{けいちろう}慶長の役では 20 万人の兵隊が名護屋に集まりました。^{りくろ}陸路を通ってきた者はこの太閤道を通して来ました。

その中には^{とくがわいえやす}徳川家康や^{まえだとしいえ}前田利家など有名な大名がいました。

現在唐津から名護屋城跡まで 20 キロの間で昔の雰囲気がよく残っています。

発掘調査では、たくさんの^{じゃり}砂利が敷いていたことがわかりました。



上の写真は昔の道を歩いているところです。